

## 郡上踊り～春駒～（岐阜県）

鶺鴒で有名な長良川を遡った所に、踊りの町郡上八幡ぐじょうはちまんがある。岐阜県の中心に位置する八幡町（現在は郡上市）は、昔から奥美濃の要衝であって、吉田川の清流を中にして四周を山に囲まれ、この山紫水明の全景を一目に見おろす城山の頂上に天守閣がそびえている。

今でもここほど民踊の盛んな所は他にない。毎年7月初旬から9月初旬まで殆んど毎夜特に8月13日から4日間の盆踊りには徹夜で踊る。町の老若男女と遠くは大阪あたりから団体で来た客とで、時には2万以上の人が一団となって無心に踊る光景は、これこそ民踊（フォークダンス）の醍醐味である。

九つのレパートリーを有する郡上踊りが真の民踊として日本一の名譽を長く保っている理由は、歴史的な藩主との深い結びつきもさることながら、根本は、明朗健全な歌と踊りが民衆のものになりきっているからである。歌詞が明朗なものが多いから、曲調もこれに伴い、踊りも当然誰でも楽しく踊れるものになっている。だから音頭取りと踊り手が掛け合いで歌うという踊りの雰囲気盛り上げる最も良い形式が発達した。

ところで郡上八幡は馬にゆかりの深い所である。鎌倉時代、宇治川の先陣争いで名高い梶原景季かじわらかげすえの名馬「磨墨」するすみは郡上郡奥明方村気良おくみょうがた けらの産であり、農民は馬を我が子の如く育てた。また歌詞にも「金の弩標どひょう（矢を入れる鞆の一種）は馬術の誉、江戸じゃ赤鞆郡上藩」とあるように、馬術の誉で金の弩標を幕府が授かった。このため4万8千石の殿様も10万石の格式があったという。歴代の藩主から馬術を奨励し、毎年7月25日に催された毛附市けつけいちという馬市には取引者が諸国から参集した。当時（1730年頃）流行していた“郡上の八幡出てゆく時は雨も降らねどみの（蓑・美濃）恋し”という名文句は、馬市に来た他国の人が遊女との別離の情を叙したものだと言われている。

このように馬とのゆかりを踊りに現しているのが「春駒」である。幕末から明治にかけて春先になると油坂峠を越えて来た越前の鯖売の呼声が囃しとなり踊り化されたという説もあるが、馬術ばじゆの誉高い郡上藩の武士が駿馬に乗って走る勇ましい姿を現わしたものだともいわれている。特に逸り馬を制御する反り身の姿勢から両手綱をさばきながら横つとびに回転する威勢のよい動作等は外国のフォークダンスと共通点（例えばハーモニカステップ）があつて、日本民踊としては貴重な振りである。「かわさき」がややお座敷調であるのに対して「春駒」は底ぬけの明るい民踊である。

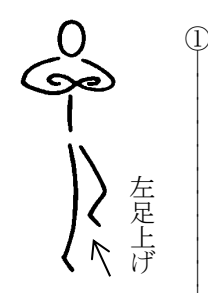
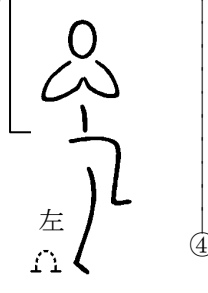

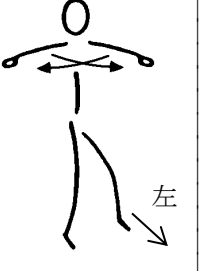
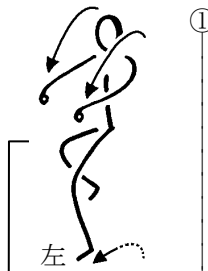
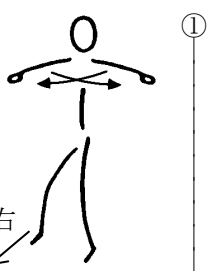
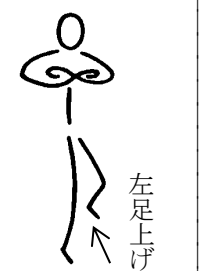
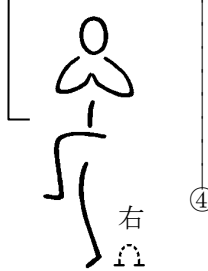

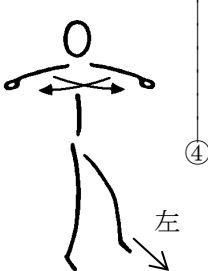
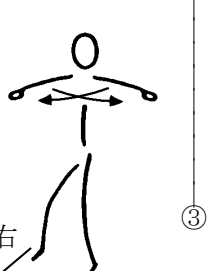
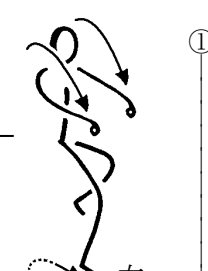
# 郡上踊り～春駒～

- ◆ 隊 形：輪おどり。
- ◆ 進行方向：時計まわり。
- ◆ 踊り始め：円心向き、どこからでもよいが、前奏8呼間聞いて踊り始める。
- ◆ 踊り方
  - ① 予備動作  
右斜めに向き、両手軽く握り、胸前で交差し、右足後ろにあげる。図(1)
  - ② 一つの二  
両手を軽く握ったまま左右に開き、右足を右斜め前に蹴り出す。次に両手胸前で交差し、右足後ろにあげる。そしてまた両手を軽く握ったまま左右に開き、右足を右斜め前に蹴り出す。図(2)～(4)
  - ③ つ三つの四  
左斜めに向き、両手軽く握ったまま胸前で交差し、左足後ろにあげる。次に両手を軽く握ったまま左右に開き、左足を左斜め前に蹴り出す。以上をもう1度くり返す。図(5)～(8)
  - ④ つ五つの六  
両手軽く握り肩の上にとり、左足踏み、右、左と2歩進行方向へ進むが、右足出した時に両手を振りおろし、からだ前かがみとなり、左足出した時に両手を再び振り上げ体を起こす。次に左足で軽くとび(ホップ)ながら円心向きとなり、右足前にあげ、胸前で“チョン”と手拍子を行う。図(9)(10)
  - ⑤ つ七つの八(つ)  
右足を円周上におろし、④の反対動作を行うが進行方向に進まずにその場で行う。図(11)(12)

円心向きに左足をおろし、くり返す。

## ◆ 留意点：

1. ①、②は馬の手綱をしめる動作。
2. ③、④は首から綱を外すような感じで、耳の横でまわす。

<p>◆輪おどり ◆時計まわり ◆円心向き、 どこからでもよいが、 前奏8呼間聞いて 踊り始める。</p>	<p>(5)</p>  <p>左足上げ</p>	<p>(10)</p>  <p>左</p>	
<p>(1)</p>  <p>右足上げ (予備動作)</p>	<p>(6)</p>  <p>左</p>	<p>(11)</p>  <p>左</p>	
<p>(2)</p>  <p>右</p>	<p>(7)</p>  <p>左足上げ</p>	<p>(12)</p>  <p>右</p>	
<p>(3)</p>  <p>右足上げ</p>	<p>(8)</p>  <p>左</p>	<p>以上をくり返す</p>	
<p>(4)</p>  <p>右</p>	<p>(9)</p>  <p>右</p>		